

九 月 の 天 象

太 陽

日	赤経	赤緯	星座	視直経
1	10時40分42秒	北8度22分	し し	31分45秒
11	11 16 48	4 29	し し	31 50
21	11 52 40	0 48	なごめ	31 56
(31)	12 28 41	南3 6	なごめ	32 1

月始め處女宮にあるが、23日に天秤宮に侵入する。同日は太陽の緯度は0度となり、秋分點を通過する。日出は午前、午後共に5時45分。1日は二百十日で、11日が二百二十日に當る。20日は彼岸・社日である。

先月始め頃、視直経は31分31秒の最小値であつたが、其の後、次第に増加しつつある。月末、太陽の廻轉軸は、地球の方へ向つて最も大きく傾き(7度)、北極の方を吾人に見せてゐる。

月

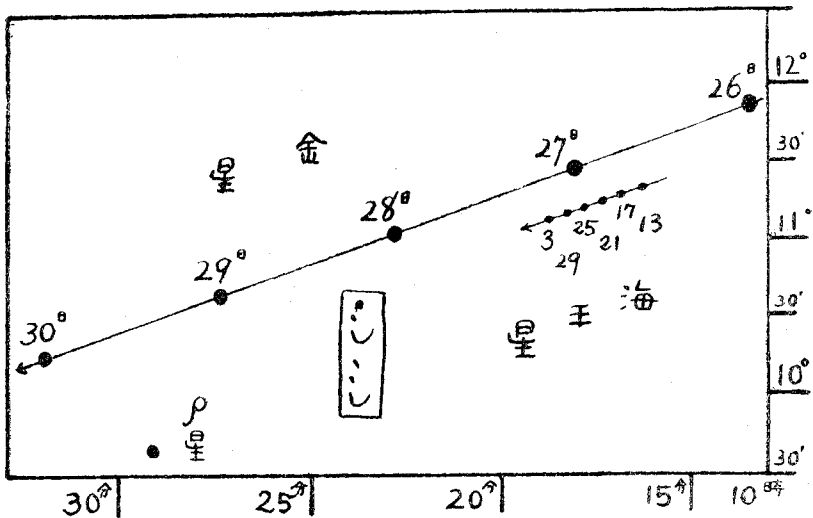
月の相	時刻	星座	視直経
新月	3日午後8時47分30秒		32分25秒
上弦	11 午前7 57 6		29 42
満月	19 午前8 15 48		30 47
下弦	26 午前11 6 48		32 16
近地點通過	1 午前7 54		32 48
遠地點通過	13 午前4 18		29 33
近地點通過	28 午前9 42		32 22

月は3日午前8時に海王星の北側を超越す。5日には午後3時に水星を抜き、續いて同日午後8時には火星に追いついて、共にその北側を通過するが、時間の都合悪く、しかも月と星との距離も随分離れてゐるので駄目。11日になつて、午後11時に土星を追いこすが、此れは西天で、没する前にやつと見る事が出来る。併し、此の時も土星は月より4度も北にあるので、餘り興味もない。其後20日までは何事も無いが、20日午前9時に天王星と出合つて、天王星の南側2度の處をすれ違ふ。越えて25日には、午前8時に木星を追ひ抜くが、時間が悪くて見られぬ。今月末日の30日になつて、午後1時に再び海王星に追ひ付き、更らに同日午後7時には、

3 日前に海王星を追越した許りの金星に追ひ付いて、今月の歴訪を終る。

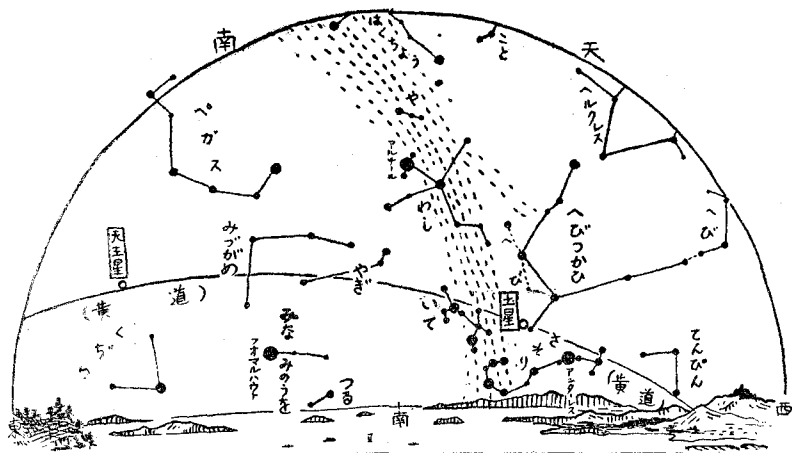
金星と海王星の接近

金星と海王星とが本月 27 日午後 9 時過ぎに會合する。此の時、兩星間の距離は僅か 18 分角程であり、金星は海王星の北側を通過する。更に金星は 30 日朝には「しし」座ロ星の北側を通る。圖は其の頃の模様を畫いたものである。



尙ほ本欄の月の項にある如く、30 日には月が此等の星の北側を通過するのであるが本圖には入らない。

各星の位置は毎日午後 9 時の位置を示して居り、海王星は本月 13 日より、來月 3 日まで 4 日目毎の位置が記入してある。光度は夫々、金星、負 3.4 等。海王星、7.8 等。ロ星、3.8 等。視直徑は金星、12.4 秒。海王星、2.4 秒である。尤も、此等は何れも太陽に随分近く、太陽から 30 度餘りしか距つてゐないので、たゞへ相當の大きさの望遠鏡でも可なり見難いかも知れない。殊に早朝に起きなければならないのが、一寸面倒である。



九月の遊星界

水 星「をこめ」座中を順行して、10 日午後 5 時に火星を抜き、火星の北側約 3 度の所を通る。12 日には東方最大離角となる。此れが本年中の最大離角であり、且つ宵の西天に見えるので、観望には最も都合がよい。以後尚順行を続け、スピカ（光度 1.2 等）の西南 2 度近く of 所まで来て、25 日に留まり以後逆行に移る。光度 0 等。視直径は月始め 6 秒、月末に 10 秒足らず。

金星 曉の星。月始め「かに」座にあり、月半ばより「しし」に入り、24 日にはレグルス（光度 1.3 等）の僅か半度以内の北側を通過し、27 日夜 9 時海王星に追付き、その北側 18 分（角）の所を通る。視直径 13 秒。光度負 3 等半。（本誌第 465 頁を見られよ。）

火星 宵の星だが太陽に近い。「をこめ」中を順行、24日にスピカの南2度の所を通る。視直徑も3秒程、月末になる程太陽に近付き観望には不便。

木 星 暁の星。「うし」座東部を順行。視直径 38 秒、光度負 2 等。

土 星 宵の星で、「へびつかひ」座中を順行、最早と観望の時期は過ぎたが、宵に南中するので其の點は都合がよい。視直徑は 15 秒、光度は正 1 等。

天王星 宵に東天に登る。「うを」座にあり。視直徑3秒。光度6等。

海王星 「しし」のレグルスに近いが、暁天、太陽に近いので駄目である。